



2016年（平成28年）10月期

決算説明会資料

株式会社オービス

代表取締役社長 なかはま ゆうじ  
中浜 勇治  
(東京証券取引所（ジャスダック市場）、証券コード：7827)

2016年12月22日



2016年10月期決算説明会資料

**PART1** 会社の概要

PART2 2016年10月期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2017年10月期の業績予想

PART5 中期計画の概要

## ニュージーランド松製材の国内最大手

当社は、木材、ハウス・エコ、ライフクリエイト、不動産の4つの事業を基盤にビジネスを展開しております。特に主力の木材事業では、ニュージーランド松（ラジアータパイン）製材の国内最大手の評価を頂いております。

会社名	株式会社オービス
設立	昭和34年11月
代表取締役社長	中浜 勇治（なかはま ゆうじ）
資本金	6億8,498万円
従業員数	174人（2016年10月末現在）
売上高	89億円（2016年10月期末）
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築及び太陽光発電システムの請負、自然エネルギー等による発電事業、フィットネスクラブ及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買
本社	〒729-0104 広島県福山市松永町六丁目10番1号
連結子会社	該当なし（2016年5月に株式会社パルを吸収合併）

●社名の由来●



当社社名の「オービス（ORVIS）」とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です。みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております。

経営理念

### 顧客満足・社員満足

当社の経営理念「顧客満足・社員満足」は、「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様にも利益を還元していく」という意味をあらわしております。

■ 当社の主要な沿革

昭和34年11月 昭和37年05月	有限会社中浜材木店を設立 広島県世羅郡世羅西町（現世羅町）に製材工場を建設	平成14年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、営業開始
昭和43年03月	ニュージーランド松の製材工場建設	平成15年05月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、不動産賃貸開始
昭和46年06月	同時にプレハブ部材の生産開始	平成18年09月	ジャスダック証券取引所に上場 （現東京証券取引所JASDAQ市場）
昭和49年09月	広島県福山市に製材工場移転	平成20年08月	木材事業姫路工場稼働開始 （平成26年11月閉鎖）
昭和62年12月	同時にプレハブハウスの完成品を販売開始 有限会社中浜材木店を組織変更し、中浜木材株式会社を設立	平成22年02月	太陽光発電パネル等の施工・販売の開始
平成01年04月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、不動産賃貸開始	平成27年11月	フィットネスクラブ「スポバブル」オープン
平成04年04月	カラオケハウスの製造販売開始	平成28年01月	カラオケ事業から撤退
平成12年12月	株式会社オービスに商号変更	平成28年04月	広島県福山市松永町へ本社を移転
平成14年08月	パナマにTUI MARITIME S.A.を設立 （平成26年9月解散） 木材運搬船「グリーンホープ」（最大積載量35,000トン）完成、航海開始 （平成26年5月売却）	平成28年05月	株式会社パルを吸収合併

PART1 会社の概要

PART2 2016年10月期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2017年10月期の業績予想

PART5 中期計画の概要

1. 要約貸借対照表

▶ 当社は2016年5月に連結子会社の株式会社パルを吸収合併いたしました。従いまして、2016年からは個別決算へと移行しております。

(単位: 百万円)

摘要	2015年 (個別)	構成比	2016年 (個別)	構成比	増減
◆ 流動資産	5,739	65.7%	4,493	44.7%	△1,246
◆ 固定資産	2,992	34.3%	5,565	55.3%	2,572
資産合計	<b>8,732</b>	<b>100.0%</b>	<b>10,058</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,326</b>
◆ 流動負債	3,800	43.5%	3,975	39.5%	175
◆ 固定負債	3,143	36.0%	3,782	37.6%	639
負債合計	<b>6,943</b>	<b>79.5%</b>	<b>7,758</b>	<b>77.1%</b>	<b>814</b>
純資産	<b>1,788</b>	<b>20.5%</b>	<b>2,300</b>	<b>22.9%</b>	<b>511</b>
負債・純資産合計	<b>8,732</b>	<b>100.0%</b>	<b>10,058</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,326</b>

◆ 自己資本比率  
20.5% 22.9%

◆ 有利子負債比率  
50.4% 56.7%

- > 流動資産⇒リース未収入金 △246百万円 [リース収入が前期比43%減少]
- ⇒販売用不動産 △259百万円 [一般顧客へ販売]
- ⇒未成工事支出金 △587百万円 [前期末は工場棟やメガソーラー等の大型物件が在庫計上]
- ⇒原材料及び貯蔵品 +239百万円 [原材料 (NZ松) の仕入計上タイミングによる]
- ⇒前渡金 △255百万円 [原材料 (NZ松) の仕入計上タイミングによる (未通関)]
- > 固定資産⇒建物 +214百万円 [フィットネスクラブの店舗設備、本社改修工事及び合併による引継]
- ⇒機械及び装置 +625百万円 [売電目的の太陽光発電設備の取得]
- ⇒土地 +1,748百万円 [福山工場 (新工場) 用地の取得及び合併による引継]
- > 流動負債⇒支払手形 △233百万円 [建設・太陽光発電設備の施工等に係る残高が減少]
- ⇒短期借入金 +600百万円 [福山工場 (新工場) 用地の取得によるつなぎ資金借入]
- ⇒1年内長期借入金 +199百万円 [売電目的の太陽光発電設備の取得に伴う資金借入及び合併による引継]
- ⇒未成工事受入金 △368百万円 [前期末は工場やメガソーラー等の大型物件の工事出来高相当額が入金]
- > 固定負債⇒長期借入金 +501百万円 [売電目的の太陽光発電設備の取得に伴う資金借入及び合併による引継]
- > 純資産 ⇒利益剰余金 +515百万円 [当期純利益の計上]

2. 要約損益計算書

▶ 当社は2016年5月に連結子会社の株式会社ノルを吸収合併いたしました。従いまして、2016年からは個別決算へと移行しております。

(単位：百万円)

摘要	2015年 (個別)	百分比	2016年 当初業績予想 (個別)	2016年 (個別)	百分比	対前期比	対業績 予想比
売上高	7,585	100.0%	8,226	8,957	100.0%	118.1%	108.9%
売上総利益	1,398	18.4%	1,478	1,646	18.4%	117.8%	111.4%
販売費及び 一般管理費	934	12.3%	1,087	1,067	11.9%	114.3%	98.2%
営業利益	464	6.1%	391	579	6.5%	124.8%	148.1%
経常利益	437	5.8%	341	547	6.1%	125.0%	160.3%
当期純利益	184	2.4%	354	523	5.8%	284.3%	147.4%
1株当たり 当期純利益	106円30銭	—	205円04銭	302円25銭	—	—	—

- ▶ 木材事業⇒⇒⇒⇒⇒⇒ (NZ材等製品出荷量は、梱包市場の受注環境が厳しく安値販売を排除した影響で減少(前期比95.3%)。NZ材製品平均販売価格は、競合樹種であるチリ材の安値販売の影響で低下(前期比92.0%)。原木価格(NZ松)は、最大消費国の中国経済の減速を受けて第2Qまでは弱含みで推移。第3Q以降大幅な上昇に転じるが、年間を通しては安定的に推移。NZ材等製品出荷量は減少したものの、国産杉・桧・北海道カラ松等の商材販売量は大幅に増加(前期比121.3%)。製品・商材を合わせた出荷量は増加(前期比103.1%)。)
- ▶ ハウス・エコ事業⇒⇒ (前期からの豊富な受注残高を背景に各工事が順調に完工し、売上高は大幅に増加(前期比144.4%)。)
- ▶ 不動産事業⇒⇒⇒⇒⇒⇒ (販売用不動産4件の引渡しにより、売上高は大幅に増加(前期比281.7%)。)
- ▶ ライフクリエイイト事業 (開店1年目のフィットネスクラブの減価償却負担等により営業赤字)
- ▶ 全体⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ (主力の木材事業及びハウス・エコ事業が業績を牽引し、大幅な増収・増益を達成)

3. 要約キャッシュ・フロー計算書

▶ 当社は2016年5月に連結子会社の株式会社ノルを吸収合併いたしました。従いまして、2016年からは個別決算へと移行しております。

(単位：百万円)

摘要	2015年 (連結) ※参考	2016年 (個別)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△129	1,623
投資活動によるキャッシュ・フロー	△527	△2,139
財務活動によるキャッシュ・フロー	584	753
現金及び現金同等物の期末残高	601	806

フリーキャッシュ・フローの獲得が課題

- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー
  - 税引前当期純利益 +622百万円
  - 減価償却費 +223百万円
  - 売上債権の減少額 +560百万円
  - たな卸資産の減少額 +565百万円
  - 前渡金の減少額 +255百万円
  - 仕入債務の減少額 △327百万円
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー
  - 有形固定資産の取得による支出 △2,125百万円
- ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー
  - 短期借入金の増加額 +560百万円
  - 長期借入れによる収入 +1,173百万円
  - 長期借入金の返済による支出 △942百万円

4. セグメント業績 木材事業①

- 販売の基本方針は、安値販売を排除し、適正な販売価格を維持すること（必要以上に出荷量の拡大を迫わず）
- ✓ お客様への営業訪問回数を増加し、顧客ニーズを的確に把握
- ✓ NZ材等製品出荷量は82千m<sup>3</sup>（前期比95.3%）
- ✓ NZ材等製品平均販売価格は、競合樹種であるチリ材の安値販売の影響で低下（前期比92.0%）
- ✓ NZ材等製品出荷量は減少したものの、国産杉・桧・北海道カラ松等の商材販売量は大幅に増加（前期比121.3%）。短納期対応のものや本社工場（広島県福山市）から遠方（関西以東）のお客様には、商材販売を積極的に活用
- ✓ 関西以東のお客様への供給体制を更に強化するため、北海道カラ松等の新規仕入先を重点的に開拓
- ✓ 商材仕入に係る物流コストの削減を目的に、配送を仕入先配から当社手配へと切り替え
- ✓ NZ材等製品出荷量と国産杉・桧・北海道カラ松等の商材販売量の合計は127千m<sup>3</sup>（前期比103.1%）
- ✓ 原木価格（NZ松）は、最大消費国の中国経済の減速を受けて第2Qまでは弱含みで推移。第3Q以降大幅な上昇に転じるものの、年間を通しては安定的に推移
- ✓ 販売価格の維持を目的に一時的ではあるが減産を実施。原木消化量は132千m<sup>3</sup>（前期比97.1%）



輸出入梱包用材



パレット用材



電線ドラム用材

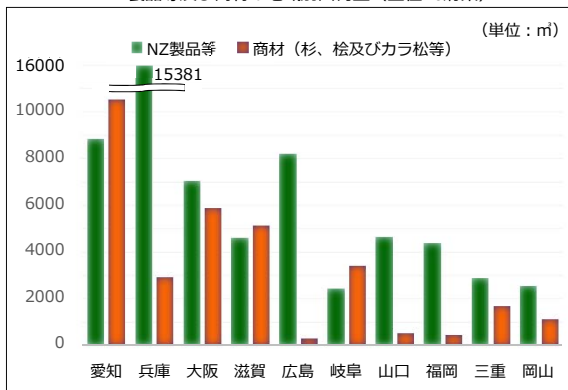
(単位:百万円)

摘要	2015年 (連結) ※参考	百分比	2016年 (個別)	百分比	対前期比
売上高	4,916	100.0%	4,755	100.0%	96.7%
営業費用	4,458	90.7%	4,375	92.0%	98.1%
営業利益	457	9.3%	380	8.0%	83.2%
平均為替 レート	117円20銭	—	114円92銭	—	98.1%

4. セグメント業績 木材事業②

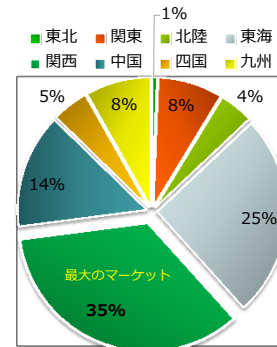
- NZ製品等及び商材（国産杉・桧・北海道カラ松等）の地域別出荷量
- ✓ NZ製品等は、運送コストが安い関西より以西で主に販売し、運送コストが高い関西以東は国産杉・桧・北海道カラ松等の商材を主に活用
- ✓ 最大のマーケットは関西圏であり、関西以西で6割強を販売
- ✓ 東北から九州までのお客様への納入実績（37都府県）があり、エンドユーザーの動向を早期に把握

NZ製品等及び商材の地域別出荷量（上位10府県）



▶ 上記の他に27の都府県に出荷を行っている

地域別出荷量（地方別）



4. セグメント業績 ハウス・エコ事業

- ▶ 前期からの豊富な受注残高を背景にハウス部門で施工の大型工場やエコ部門で施工のメガソーラー等の各工事が順調に完工し、売上高は37億23百万円（前期比144.4%）
  - ✓ 対官公庁売上高は前期とほぼ横ばいながら、対民間売上高は大幅に増加
  - ✓ 工事粗利率の向上を目的とした受注時採算性の強化、原価・施工管理の徹底を継続（売上高は前期比144.4%となったが、太陽光発電所の売電収入の増加もあり、工事粗利率等は前期と同水準を確保）
- ▶ 太陽光発電所の売電収入は2億10百万円（前期比365.9%）
  - ✓ 太陽光発電所の発電規模は、前期末の約4.5MWから当期末は約8.5MWへ倍増
  - ✓ 2016年12月には約1.5MW、2017年6月には約0.9MWの太陽光発電所が稼働予定
  - ✓ 当社の太陽光発電所は自社施工。一般的な施工価格に比べ2～3割安く施工することが可能
- ▶ その結果、投資利回りが非常に高く投資額の回収期間は5年～7年を想定
- ▶ 事業全体の当期末における受注残高は10億46百万円（前期比50.7%）であるが、直近では官公庁案件を中心に受注残高が増加



(単位:百万円)

摘要	2015年 (連結) ※参考	百分比	2016年 (個別)	百分比	対前期比
売上高	2,577	100.0%	3,723	100.0%	144.4%
営業費用	2,420	93.9%	3,381	90.8%	139.7%
営業利益	157	6.1%	341	9.2%	216.6%

4. セグメント業績 ライフクリエイト事業

- ▶ カラオケは、2016年1月をもって残りの1店舗を閉鎖し、カラオケ事業から完全撤退
- ▶ 2016年5月に連結子会社であった株式会社ハルを吸収合併
- ▶ ゴルフ場部門は、お客様の利便性の向上を目的とした設備の改修や各種イベントを開催した結果、来場者数は増加（前期比103.1%）
- ▶ 新規事業としてフィットネスクラブの1号店（スポパル）を2015年11月に広島県福山市にオープン
  - ✓ 新しいプログラムの導入やゴルフ・ボーリング大会等の各種イベントを開催
  - ✓ 個々のニーズの多様化に対応。付加価値を高めたパーソナルストレッチ等の新しいサービスの提供開始
  - ✓ 新聞広告やポスティング等を積極的に活用し、認知度の向上を図る
  - ✓ 2016年10月末の会員数は1,143名
- ▶ 事業全体の損益は、フィットネスクラブの減価償却負担や広告宣伝費が増加したことに加え、目標会員数獲得までに期間を要することから、営業赤字を計上



(単位:百万円)

摘要	2015年 (連結) ※参考	百分比	2016年 (個別)	百分比	対前期比
売上高	381	100.0%	221	100.0%	58.0%
営業費用	379	99.5%	276	125.1%	73.0%
営業利益又は 営業損失(△)	1	0.5%	△55	-%	-%

✓ 2016年の各数値は、連結子会社であった株式会社ハルを吸収合併したことにより、ゴルフ場部門の5月から10月までの数値を記載

PART1 会社の概要

PART2 2016年10月期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

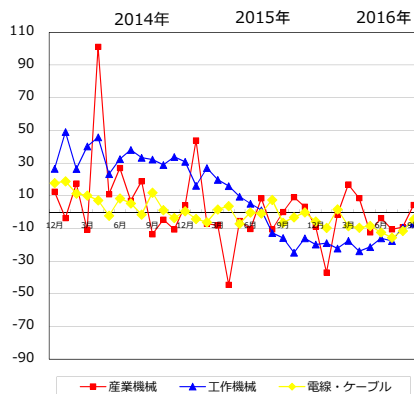
PART4 2017年10月期の業績予想

PART5 中期計画の概要

■ 木材事業の市場環境 ①～梱包用材のエンドユーザーの環境

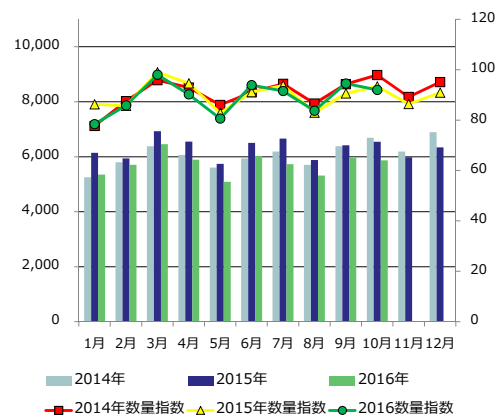
➢ 産業機械及び工作機械の受注状況  
内閣府経済社会総合研究所  
機械受注統計調査

前年同月比 (%)



✓ 産業機械・工作機械等の受注は低調

➢ 輸出の状況 (財務省貿易統計) (十億円,%)



輸出金額及び輸出数量

※輸出数量指数は2010年を100とした数値

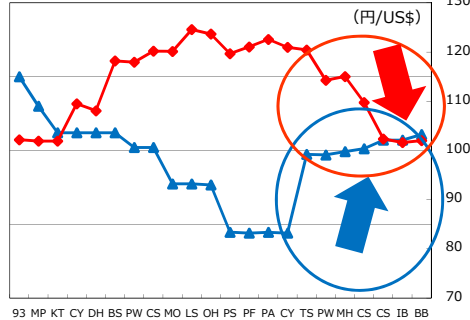
✓ 輸出金額・輸出数量も低調

■ 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

➢ 為替とFOB価格の推移

■ 為替は、各航海の平均為替レートを表示（右軸）

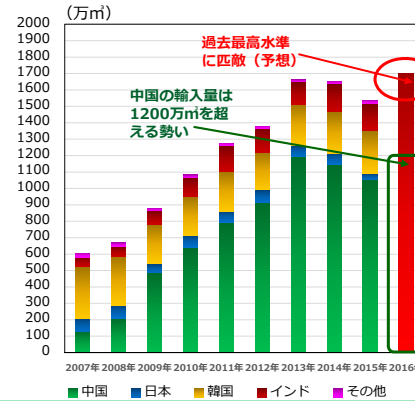
▲ FOB価格は、推移の動向を表示・実際の金額は非公表



航海番号及び船名

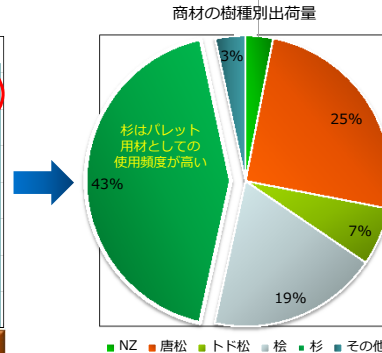
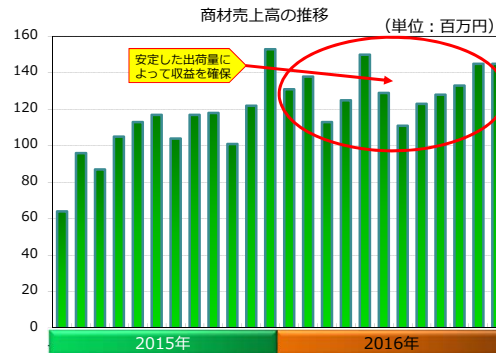
- 為替は120円/ドルから期末にかけて100円前半/ドルへ円高が進行。
- NZ松のFOB価格は、最大消費国である中国経済の停滞で第2Qまでは弱含みで推移。第3Qに入り同国の原木在庫量の調整が進み大幅上昇。第4Qは航海毎に数ドルずつ上昇。
- NZ松全体の輸入量は、2016年において中国が約1200万m<sup>3</sup>（全体の約7割、日本は約40万m<sup>3</sup>）に迫る勢いで買付を行っており、過去最高を更新する可能性がある。
- NZ松は、最大消費国である中国の需要・購買意欲次第でFOB価格が大きく上下に振れる構造である。

➢ ニュージーランド松の国別原木輸入量



■ 木材事業：取組みの進捗状況

- 製品出荷量は82千m<sup>3</sup>（予算比96.9%）
- 原木消化量は132千m<sup>3</sup>（予算比99.1%）〔梱包市況が不況時には一時的に減産を実施〕
- 適正価格で販売（予算比98.3%）〔安値販売の排除を徹底〕
- 国産材（杉・桧・北海道カラ松等）及びLVL等の商材を拡販
  - ✓ 既存の販売ルートを活用、NZ材以外の商材を販売
  - ✓ 杉・桧・北海道カラ松で商材出荷量全体の約9割を占める
  - ✓ 北海道カラ松を主として仕入先の更なる開拓を行い、新規・休眠顧客の掘り起こしに注力
  - ✓ 当期の商材売上高は15億51百万円（予算比137.3%）





■ 木材事業：今後の取組み ①～福山工場（新工場）の建設



✓ 福山工場建設現場（2016年12月12日撮影）

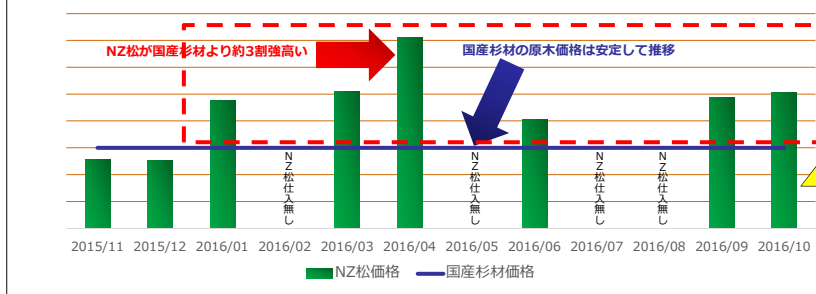
■ 木材事業：今後の取組み ②～福山工場（新工場）の建設

- ▶ 木材事業福山工場（新工場）の建設理由
  - ✓ 昭和62年に建設され30年が経過し老朽化が進んだ現工場を移転し、更なる生産効率・品質の向上を図る
  - ✓ 姫路工場操業停止（2014年4月⇒同年11月閉鎖）以降、2交代で操業を続ける現工場の労働環境を改善
  - ✓ 広島県福山市から2016年2月に売却された近隣土地を落札
- ▶ 木材事業福山工場（新工場）の概要
  - ✓ 名称及び住所・・・株式会社オービス福山工場、広島県福山市柳津町1丁目2263番1、2263番3
  - ✓ 敷地面積・・・21,207.1㎡（現工場の約2倍強）
  - ✓ 総投資額・・・約49億円（銀行借入を予定）
  - ✓ 工期・・・2016年11月～2018年3月（フル生産は2018年11月を予定）
- ▶ 福山工場（新工場）建設の主なメリット

摘要	現工場	福山工場（新工場）	メリット
原材料	NZ松	NZ松及び国産杉材	✓ 為替動向やFOB価格といった外的要因の影響を受けるNZ材のみの生産から、国産杉材の生産を新たに開始し、原材料コストに占める外的要因（NZ材）の影響を低下させる
年間生産量	約132千㎡	現工場と同量を日勤のみで生産可能	✓ 商材の仕入ボリュームを調整し、新工場で国産杉材を新たに生産開始（1㎡あたりの製造コストを削減）
工場敷地面積	約10千㎡	約21千㎡	✓ 現工場の2倍以上の敷地面積を有するため、生産ラインの効率化が実現
工場従業員の勤務形態	日勤と夜勤の2交代制（残業＋土曜日稼働）	日勤（残業無の土曜日休暇）	✓ 工場従業員確保の問題解消 ✓ 人件費の抑制
歩留率	-	現工場より最低1%向上	✓ 利益増加
長さ4m超の製材	製材不可（少量を外注生産）	4m超も製材可能	✓ 大口輸出梱包業者への販路拡大 ✓ 納期大幅短縮に伴う受注の増加

■ 木材事業：今後の取組み ③～福山工場（新工場）の建設

➢ NZ松と国産杉材の原木価格（1㎡当たり）の推移（仕入ベース）※実際の仕入単価は公表していない

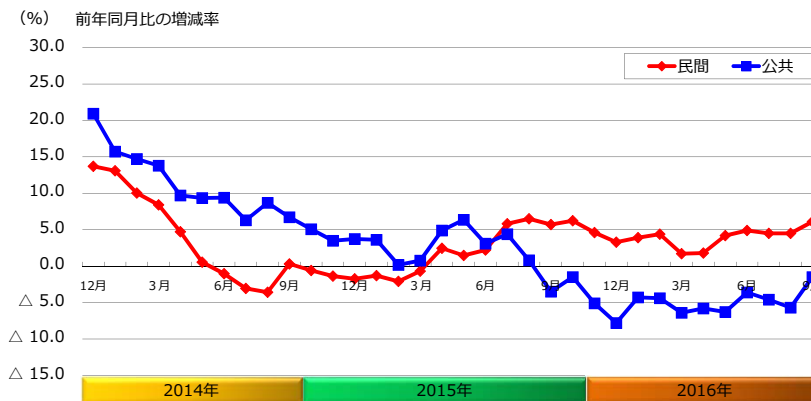


- 現状の製品製造コストに占める材料費の割合は75%強（大半がNZ松）である
  - ✓ 原材料のほぼ全量がNZ松であるため、NZ松の価格が上昇（FOB価格の上昇・為替円安）しマーケットが不況（供給過多）の場合、原材料価格の上昇を販売価格に転嫁できないケースがある。姫路工場は、原材料価格の急激な上昇に耐えられなかったことが閉鎖理由の1つでもある
- 福山工場で生産する国産杉材は、一般的な製材工場（柱・梁桁等の生産）が敬遠する低品質な大径木を原材料とするので、NZ松と比較して安価で調達（継続的）を行うことが可能

- 当社の販売主品目は、梱包用材である。梱包用材は消耗資材であるため、お客様の最優先事項は納期と販売価格である。安価な国産杉材の生産を開始することは、更なるお客様ニーズに応えることでもある
- NZ松と国産杉材を生産することで、原材料の調達（これまではNZ松1樹種）に対するリスクヘッジが可能

■ ハウス・エコ事業の市場環境

➢ 建設総合統計（出来高ベース）国土交通省公表

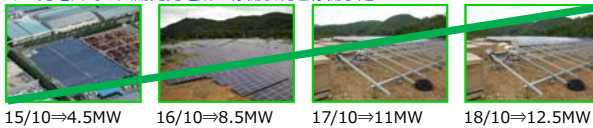


- ✓ 建設需要は、民間投資は持ち直しの兆しがあるものの、公共投資は依然として低迷が続く

●ハウス・エコ事業：今後の取組み

- 建設需要への取組み
  - ✓ 学校の耐震改修のための仮設校舎や放課後児童クラブ等の官公庁入札へ積極的に参加
  - ✓ プレハブ建築以外の重量鉄骨による在来工法やシステム建築等に積極的に取組み、1億円超の大型物件の受注獲得と受注件数の増加を目指す
  - ✓ 選別受注の実践による現在及び将来にわたっての利益率向上への更なるこだわり  
(利益率重視の取組みが浸透しつつある)
  - ✓ 継続的成長を目指した計画的人材育成の実践
  - ✓ 2017年は国内景気の不透明感や労務費の高騰、資材価格上昇等の懸念材料があるが、従来にも増して原価・施工管理の徹底の回り、現場力の強化を推進
- 太陽光発電への取組み
  - ✓ 再生可能エネルギー政策の転換に合わせ、50kW以下の低圧案件の取込みに注力
  - ✓ 売電目的の太陽光発電所の建設を加速（フル稼働の場合、年間5億円超の売電収入が見込まれる）
  - ✓ 他部門への人材シフト

◆ 売電目的の太陽光発電所の稼働状況と稼働予定



15/10⇒4.5MW    16/10⇒8.5MW    17/10⇒11MW    18/10⇒12.5MW

◆ ゴルフ練習場棟



◆ 重量鉄骨による在来工法（工場）



●ライフクリエイイト事業：今後の取組み

- 2016年1月にカラオケ部門から完全撤退、フィットネスクラブ及びゴルフ場の運営を行うライフクリエイイト事業へと移行
- フィットネス部門は、第3四半期（2017年5月）以降、単月では初めての営業黒字化を目指す
  - ✓ 体組成計やインドアサイクルの導入
  - ✓ 入会・紹介キャンペーンの実施、各種イベントへ積極的に参加
  - ✓ パーソナルレッスンの増加、定期回数券の販売及び物品販売等により会費外収入の増加を目指す
  - ✓ 2017年10月末の目標会員数は1,450名（2016年10月末は1,143名）
- ゴルフ場部門は、お客様の利便性の向上を目的とした設備の改修及び各種イベントを積極的に開催し、近隣コースとの差別化を図り、更なる魅力あるゴルフ場づくりへの取組みを実行
  - ✓ ゴルフカートの入替え、ゴルフカート道路の改修工事
  - ✓ 全てのゴルフカートに最新・最高級のGPSナビゲーションシステムを導入  
〔お客様の利便性の向上、コンペ等のスコア集計業務の削減及びラウンド時間の短縮〕
  - ✓ 季節毎に厳選された食材をふんだんに使用した飲食メニューを提供



スポパル福山緑町店（広島県福山市）



中須ゴルフ倶楽部（山口県周南市）



厳選された飲食メニュー

山口県の観光名所 錦帯橋をモデル

PART1 会社の概要

PART2 2016年10月期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

**PART4 2017年10月期の業績予想**

PART5 中期計画の概要

1. 個別業績予想 (通期)

(単位：百万円)

摘要	2016年 (個別)	百分比	2017年 (個別)	百分比	対前期比
売上高	8,957	100.0%	8,281	100.0%	92.5%
売上総利益	1,646	18.4%	1,551	18.7%	94.2%
販売費及び一般管理費	1,067	11.9%	1,241	15.0%	116.3%
営業利益	579	6.5%	310	3.7%	53.6%
経常利益	547	6.1%	245	3.0%	44.8%
当期純利益	523	5.8%	219	2.6%	41.9%
1株当たり当期純利益	302円25銭	—	126円68銭	—	—

2. 通期業績予想の要旨

- ▶ 木材事業
  - ✓ 輸入為替レートは、1米ドル103円を見込む
  - ✓ NZ松の原木価格は、最大消費国である中国の需要増で前期比3.4%の上昇を見込む
  - ✓ NZ松等の原木消化量は、老朽化した製材設備の計画的な整備を行い安定的な生産に努めることで前期比3.4%増加の136千mを見込む
  - ✓ NZ松製品の販売価格は、輸出梱包用材関連において海外工場の設備更新や新興国向けインフラ輸出の大型案件がでており期待感はあるものの、競合樹種であるチリ産材のシェア巻き返しによる安値販売の影響等もあり、保守的にとらえて前期比2.6%の低下を見込む（直近ではFOB価格の高騰や急激な為替円安の影響で1m4,000円程度の値上げが必要）
  - ✓ NZ松等製品出荷量は、業種・地域・サイズ等をコントロールしつつ3.8%増加の85千mを見込む
  - ✓ 杉・松・北海道カラ松等の商材販売量は、NZ松等製品の受注状況に応じて仕入先を活用するため、前期比5.5%減少（NZ松等製品出荷量は3.8%増加）の42千mを見込む
  - ✓ 木材福山工場建設に係る借入金利息19百万円を見込む
  - ✓ 上記の結果、売上高は46億95百万円（前期比98.7%）、営業利益は2億30百万円（前期比60.5%）を見込む
- ▶ ハウス・エコ事業
  - ✓ ハウス・太陽光発電（施工・販売）は、前期において複数の大型工事が完工した反動減に加え、太陽光発電は買取価格の低下等により新規の大型案件はなく、主として50KW未満の低圧案件や既存設置物件の増設工事を見込む
  - ✓ 太陽光発電（売電）は、新たに2箇所の発電所が稼働を開始し、2017年10月末には約11MWが稼働予定となり約4億円の売電収入を見込む
  - ✓ 上記の結果、売上高は30億92百万円（前期比83.1%）、営業利益は2億75百万円（前期比80.5%）を見込む
- ▶ ライフクリエイティブ事業
  - ✓ ゴルフ場部門の来場者数は、保守的にとらえて前期比1.5%の減少を見込む。ただし、カート道路の改修や最新・最高級のGPSナビゲーションシステムの導入により年間40千人超の来場者数の確保を目指す（近隣ゴルフ場の閉鎖により来場者数は更に増加する可能性もある）
  - ✓ フィットネス部門は、会費外収入（パーソナルレッスン・物品販売・回数券販売等）の増加と引き続き入会キャンペーン等（入会金・登録料・1ヶ月分会費無料等）による会員獲得に努めることで、当期末の目標会員数を1,450名（前期末会員数は1,143名）とし、第3Q以降、単月ベースでは初めて営業黒字化を見込む
  - ✓ 上記の結果、売上高は4億1百万円（前期比181.5%）、営業利益は9百万円（前期は営業損失55百万円）を見込む
- ▶ 不動産事業
  - ✓ 前期に販売用不動産の大半を販売済のため、売上高は賃貸用マンションの賃料収入のみを見込む
  - ✓ 上記の結果、売上高は92百万円（前期比35.8%）、営業利益は55百万円（前期比55.5%）を見込む
- ▶ 全体（本社経費含む）
  - ✓ 売上高は82億81百万円（前期比92.5%）、営業利益は3億10百万円（前期比53.6%）を見込む

3. 第2四半期累計期間業績予想

（単位：百万円）

摘要	2016年 第2四半期 (個別) ※参考	百分比	2017年 第2四半期 (個別)	百分比	対前期比 ※参考
売上高	5,265	100.0%	4,156	100.0%	78.9%
売上総利益	1,000	19.0%	743	17.9%	74.3%
販売費及び一般管理費	466	8.9%	615	14.8%	131.9%
営業利益	534	10.1%	127	3.1%	23.9%
経常利益	519	9.9%	96	2.3%	18.6%
当期純利益	417	7.9%	86	2.1%	20.7%
1株当たり当期純利益	241円00銭	—	49円90銭	—	—

- ▶ 詳細はP25の「2.通期業績予想の要旨」を参照
- ▶ 2017年第2四半期は、前期において業績を牽引したハウス・エコ事業の大型案件（工場棟・メガソーラー）及び不動産事業の販売用不動産の売上計上があったことによる反動減や木材事業の原材料価格の高騰により大幅な減収・減益を予想
- ▶ 2017年第2四半期の販売費及び一般管理費は、2016年5月に株式会社パルを吸収合併したことに伴い経費が増加（2016年第2四半期の販売費及び一般管理費には株式会社パルの経費は未計上）

4. 株主還元－配当方針と実績

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題と認識しており、将来の事業計画、設備投資及び経営安定化のための内部留保に努めると共に、業績に応じた適正な利益配分を考慮しつつ、安定的な配当を継続して実施していくことを基本的な方針としております。

摘要	中間配当 (円)	期末配当 (円)	年間配当 (円)	当期純利益 (千円)	配当性向 (%)
2011年10月期	0.00	0.00	0.00	48,377	—%
2012年10月期	0.00	5.00	5.00	65,692	13.2%
2013年10月期	0.00	0.00	0.00	△1,153,387	—%
2014年10月期	0.00	10.00	10.00	1,241,579	1.4%
2015年10月期	0.00	10.00	10.00	370,254	4.7%
2016年10月期	0.00	15.00	15.00	523,211	5.0%
2017年10月期 (予定)	0.00	15.00	15.00	219,288	11.8%

個別決算へ移行

安定的な配当を継続して実施することを基本的な方針としておりますが、早期に具体的な配当性向の目標値を定めたいと考えております。

PART1 会社の概要

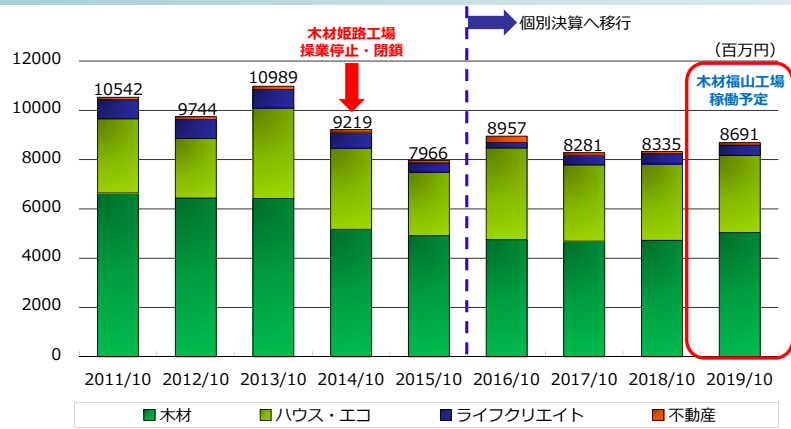
PART2 2016年10月期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2017年10月期の業績予想

**PART5 中期計画の概要**

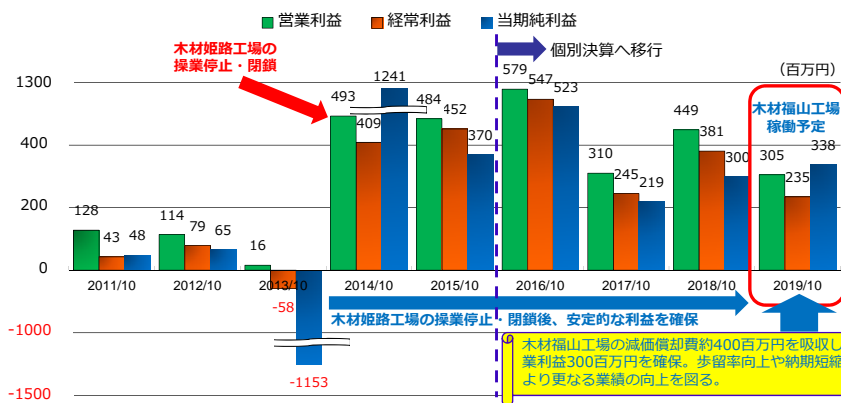
1. 売上高 (2016年10月期より個別数値)



木材事業の売上高は、各期とも2016年10月期と比較して微増を見込んでいるが、2019年10月期より福山工場（新工場）の本格稼働により納期短縮や多品種生産が可能となることに加え、同工場は現工場（2交代⇒日勤・夜勤）の生産量を1交代（日勤）の定時操業で生産が可能であることから、マーケット次第では更なる売上高の増加が見込まれる。

ハウス・エコ事業の売上高は、各期とも2016年10月期と比較して約15%から約17%の減少見込みとしているが、営業及び工事資格者の採用を積極的に進め、プレハブ建築以外の重量鉄骨による在来工法やシステム建築等の施工物件の多様化に向けた取り組みを加速させることで更なる売上高の増加を図っていく。また、売電目的の太陽光発電設備の売電収入は大幅な増加（全て稼働すると年間約5億円の売電収入）が見込まれる。

2. 営業利益、経常利益及び当期純利益 (2016年10月期より個別数値)



木材事業は、NZ松の原材料高が見込まれることや2019年10月期は福山工場の本格稼働を予定しており減価償却費が大幅に増加（2016/10⇒約150万円、2019/10⇒約400万円）するため、減益を見込んでいる。

ハウス・エコ事業は、各期とも売上高が2016年10月期と比較して約15%から約17%減収予想であるため、減益を見込んでいる。但し、2018年10月期には売電目的の太陽光発電所が全て稼働を開始し収益に貢献するため、減益幅は木材事業より小さくなる見込みである。なお、保守的な予算を立てていることに加え、2020年の東京五輪までは比較的好況な市場環境が予想されるため、各利益共、更なる上振れを目指していく。

## ●本資料お取扱上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## ➤ IR担当窓口



株式会社 オービス 経理部 井上清輝  
Tel. 084-934-2621 (代)  
Fax. 084-934-2624  
E-mail : [ir@orvis.co.jp](mailto:ir@orvis.co.jp)  
URL : <http://www.orvis.co.jp>